



こんにちは

村田けい子です

2017
12.8
No 131

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

ウガンダ共和国、キプロティッチ選手と大使館3等書記官、町を訪問、職員・議会挙げて大歓迎 12月5日(火)



信濃毎日新聞でも報道されたように、佐久平まで迎えに行った町のバスに乗り、お二人が町役場を訪れ、全職員が玄関に出てウガンダ共和国の旗を振り、大歓迎しました。シーナちゃんもお出迎え。その後9時から、町長・議会が歓迎会を行いました。町長はあいさつの中で「準優勝おめでとうございます。3日の福岡国際マラソンにおいて、日本の大迫選手を抜いたときに手をたたいて喜んだのは立科町の関係者だけでなかったか」と語り、次は金メダルを狙ってほしいと希望を伝えました。「ホストタウンとして最大限のおもてなしをする用意があります。」と大歓迎

しました。議員は、「立科町は里の標高600mから、グラウンドのある女神湖周辺は1530m、そして蓼科山は2530mで、この標高差を利用してトレーニングに励んでほしい」「準優勝おめでとうございます」「お住まいになっているところはどんなところですか」「走っているときにはどんなことを考えていますか」など質問しました。キプロティッチ選手は「住まいは標高1500mくらいで、練習はさらに高地でやっています」「国のために、国を代表して走っています」と答えました。私も「日本の食べ物で好きなものは何ですか」と聞き「SUSHIです」と答えが返ってきました。

訪問には、町を紹介してくださった奥龍将さんも通訳を兼ねて同行しました。奥さんは国学院時代に立科でトレーニングをしたそうで、その縁で高地トレーニングに適した場所ということで立科町を推薦してくださいました。今後ホストタウンとしての申請業務などをお願いすることになります。12月補正予算に250万円組まれています。(東京オリンピック・パラリンピックホストタウン交流事業負担金)



西藤議長
米村町長
キプロティッチ選手
(右)
駐日ウガンダ大使館
三等書記官
ムシングジ・ジェ
シーさん(左)
通訳を兼ねて両国の
公式コーディネーターの
奥龍将さん



来る日のために



役場の駐車場のわきにモコモコの柔毛に包まれた蕾が空をめざしてありました。木蓮の蕾でしょうか。これから厳しい冬を迎えるので、しっかりと毛皮で身を包んで、春の準備をしているのでしょうか。すっきりと晴れた青空に、実に毅然と、凜として立っていました。

今朝はマイナス7度。あたり一面霜で真っ白くなっていました。木々も草も、冬支度です。

このように盛大に歓迎していただき感謝しています。ウガンダの国民はスポーツが大好きで 盛んです。

この後、女神湖横のグラウンドを視察しました。

地域の話



鯉こく、コネツケ、ハヤトウリのきんぴら、漬物など佐久地域の伝統食が並んだ

12.2 第23回食と農のつどい

記念講演「和食国産のすすめ」

佐久市内で活動するコカリナ演奏で会はオープン、その後、農村医学研究所研究員で実行委員長でもある浅沼信治さんの講演がありました。

農民連で独自に食品分析器を購入し、輸入食品の検査をしているが、中国産のハウレンソウからは残留農薬が基準の何倍もあったとのこと。かつて日本では白米を食べ始めてから脚気が流行。玄米に含まれるビタミンB1が精米によって失われてしまう。玄米をぜひ食してほしいとのこと。また、アメリカの小麦戦略により「感性豊かな子供のころにパン食を習慣にすると、その子が親になってもパン食になる」という壮大な戦略が作られた。戦後のパン食の勧めにより、現代の食生活



私たち「SHINDENの風」も出演

ではコメよりもパン食が多くなってしまった。

また、戦後の食糧不足の時に、アメリカから小麦の支援を要請したら、「軍隊があることが前提」と言われ、自衛隊を軍隊と見なすということで小麦の支援を実現したとのこと。アメリカでは海外農務局があり、海外への農産物輸出戦略をもって仕事をしている。日本にはなぜこうした戦略を進める部署がないのか、と指摘していました。現在の農業の処方箋は「後継者一人」。高齢化する農家の励み・希望は後継者を作ること。命を育む心は輸入できない。「農業を軽んじる国から滅びる」(若月先生のことば)などの指摘に、できるだけお米は玄米を食べ、地域の伝統食を残し伝えていかねばと思いました。又農政の転換をして、農業が続けられる日本にしなければと思いました。



12.2 国民救援会の総会

長野県で起こった2.4事件。軍国主義教育ではなく民主的教育をしていた教師を次々と弾圧し、教壇から追放した。共謀罪は歯止めなく弾圧の道具となったという。

12.3 核兵器の全面禁止・廃絶へ

ー歴史を作り続ける草の根の行動

日本原水爆禁止協議会代表理事の高草木博さんの講演

高草木博



7月7日の国連での核兵器禁止条約締結の背景には、被爆者と草の根の運動が生み出した。禁止条約が批准されれば、「核の傘」も核の持ち込みも違法となる画期的な内容。

核兵器保有国は抵抗するだろうが、国際世論は核廃絶という大きな流れにある。という確信に満ちたお話でした。



一番大きな黒い模型が長崎に落とされた原爆、中の一番小さい赤い色が現代の原爆。大砲でも打てる機動性がある。小さくても威力は大きい。

12.4 安全祈願祭&冬山開き

at女神湖、2in1スキー場、国際スキー場
今年も無事に営業できますように



馬頭観音に「今年も無事に牧場を閉鎖できます」とお礼の儀式もいっしょに執り行いました。四方にお米、お酒を撒いて感謝する町長。

